

変形労働制ではなく、せんせいふやそう!

止めよう! 変形労働制 44

「止めよう! 変形労働制」ニュース No.44

全北海道教職員組合

2019.12.23

緊急シンポジウム～工藤祥子さんの講演より④

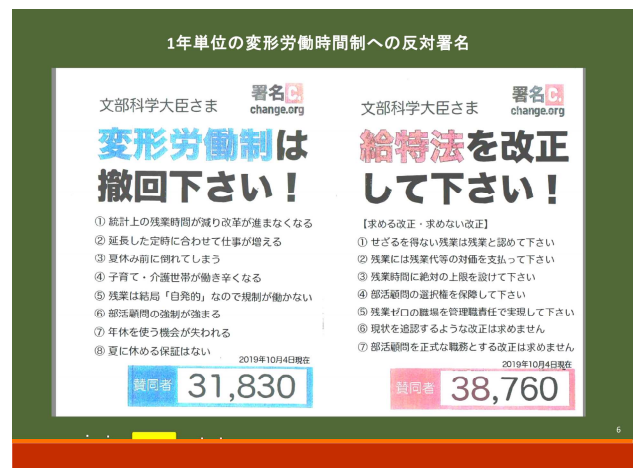
**小さな声を上げることが、大きな波になって、
状況を変えていくことができる**

●変形労働制導入反対を求め、手作りの署名

変形労働制の撤回を求める署名は、現役教師の斉藤ひでみ（本名・西村祐二）さんと2人でChange.orgのネット署名を始めました。

9月初めに、臨時国会で給特法が改定されて変形労働制が導入されるらしいと聞き、日頃からいっしょに活動していた斉藤ひでみさんや名古屋大学の内田良さんたちと何度も話し合い、9月16日から署名を始めました。

このときは、斉藤さんはまだ仮名で、顔出しNGでした。署名も手作りのもので、どうなるのかと不安もあったスタートでした。



●始めは、不安で孤独な一個人だった～かなりの誹謗中傷も

私自身、夫が12年前に他界したときは、不安で孤独な一個人でした。公務災害認定に向けての活動も、同僚や互助会の協力はありましたが、組織的な協力を得ることができず、大変孤独でつらいたたかひを続けて、最初は公務外とされてしまいました。

そのときには、新聞記事に出るたびに、ネットでかなりの誹謗中傷も受けました。それでも、夫が教師として生きて証を残したいという一心で訴え続ける中で、だんだん理解者が増えて、たくさんの方に協力いただき、二審目で公務上と認めさせることができました。

全国過労死を考える家族の会でも、被災した遺族が集まって、過労死防止の法制定を訴えて2年間で50万筆の署名を集めました。その署名が国会で超党派議員の賛同を得られ、過労死等防止対策推進法が成立しました。私は、いま、大綱に則って、当事者代表として過労死等防止対策推進協議会委員を拝命し、厚労省の方と仕事をするに至っています。

●小さな声を上げることが、大きな波になって、何かを変えていく

私は、夫が他界してから12年間で、絶望の中にいたのですが、そこから、小さな声を上げることが、大きな波になって、何かを変えていくという経験を、このように重ねてきました。辛い思いもりましたが、でも、最初に夫が過労死認定をしてもらうために声を上げたことが、今もずっと継続して、つながっています。